

環境保全活動 + ボランティア + 大学 = もっと未来へ！

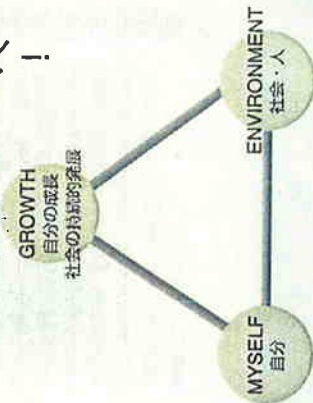


早稲田大学ボランティアセンターは、ボランティア活動を通じ、大学の教育・研究活動の社会への還元を活動の目的のひとつとしています。現在進行中のプロジェクト数は約30。そのひとつに環境ボランティア学校があります。

環境ボランティア学校は「入校は環境ボランティアに興味があった日、やりたいうことがみつかられたら卒業」を基本コンセプトに2003年に始動しました。「環境によいことやみんなのためになりたいこと」をテーマに24回を数え、企業はこれまでに24回を数えます。

環境ボランティア学校への参加がきっかけとなって、学生が環境問題に興味をもち、自主的に学び、調べ、活動し、やがて環境問題が少しずつ解決していきは、...そのような思いを込めて企画をしています。

ボランティアセンターの枠組み



環境ボランティア学校2005-06年度の活動

- 【2005年度】
- 第14回：2005年4月9日：市民ビオトープ講演会
●地球環境パートナーシッププラザ
 - 第15回：2005年5月24日：トイレの汚水はどこへ行く？
●清水水再生センター見学会
 - 第16回：2005年6月28日：大学のごみはどこへ行く？
ペットボトルリサイクル工場見学会
●神奈川県横浜市
 - 第17回：2005年7月16日：木と土にふれながら、アフリカの砂漠化と植林活動を学ぶ
～森と生きるワークショップ
●「サヘルの森」活動地（横浜市）
 - 第18回：2005年10月15日：
「YAPP」での自然プログラム」報告会
●早稲田大学
 - 第19回：2005年11月19日：
「ヨローロッパ、モルドバ共和国視察報告会」
●早稲田大学
 - 第20回：2005年12月15日16日17日：
「エコプロダクツへ行こう！」
●東京ビックサイト
- 【2006年度】
- 第21回：2006年4月15日：講演会
「環境問題から見えてくる、新しい社会のつくり方」
 - 第22回：2006年5月20～21日：
「益子町環境基本計画リーディングプロジェクト(第1回)」
●栃木県益子町
 - 第23回：2006年6月23日：大学のごみはどこへ行く？
ごみ中間処分場環境リサイクルセンター見学会
●東京都江原区
 - 第24回：2006年7月～2日：
「益子町環境基本計画リーディングプロジェクト(第2回)」
●栃木県益子町



エコユースター学生教職員懇談会

学生と教職員が環境問題について語り合う場が、「エコユースター学生教職員懇談会」です。2000年に開始され、以後年に1回のペースで開催しています。地域全体の環境問題から、大学のごみまで、話し合われる話題は様々です。この話し合いから、改善活動に発展することもあります。

例えば、もっと紙を分別しやすくごみ箱を整理して欲しいという要望により、屋外用の紙製リサイクルボックスを企画しました。また、「環境ボランティア学校」の大学のごみはどこへ行く？運動企画は、大学のごみはどこへ行って処理されるか知りたいという意見から始まりました。最近では「理想的なごみ箱はどんなものだろうか？」という問いかけが「早稲田オリジナルごみ箱開発プロジェクト」として発表しました。

これからも「未来の種」がこの懇談会から出てくるでしょう。

地域と共に

早稲田大学を初めて訪れた方は、大学が街と浑然一体となっている様子に驚かれます。そんな早稲田界隈の雰囲気は長い歴史の中で培われてきました。学生は喫茶店や食堂で仲間たちと語り合い、店の人たちは、そんな学生を前には見守り、時には教養もしてくれます。早稲田の街全体が教養ともいえるでしょう。西早稲田キャンパスで開催される地球環境祭は、商店街が主催する環境や防災をテーマとしたイベントです。また、新宿区で環境保全活動を行っている企業等の情報交換の場である「エコ事業推進総会」に早稲田大学は積極的に参加しています。



学生の高で実現した紙製リサイクルボックス

特集 学生の環境保全活動

- 甲斐田大学には18の大学院と11の学部があり、それぞれに専門に関する科目があります。科目ごとに「単位」と付くものだけでなく400科目以上あります。
- そのうち、全学部の学生が履修可能なオープン教育科目を抽出しました。各学部、大学院の科目は含まれていません。

環境関連授業

環境関連科目一覧		オープン教育センター
NPO実証塾		〃
ボランティア論		〃
環境とボランティア		〃
持続可能な社会と市民の役割(ミクロアジアの島と日本の農村から見える「豊かさ」の権衡的考察)		〃
国際交流と社会貢献		〃
都市と農村関係論		〃
農山村発展実習・森林整備入門		〃
富士山環境再生実証講座		〃
環境システム学		〃
環境問題視察実習		〃
現場と映像で探る自然体験学習で自然科学の世界へ		〃
中国特産可能な発酵その現在と未来		〃
中国農村研究入門		〃
環境とアート		〃
環境における科学と技術：エジプト文明の形成		〃
環境における科学と技術：地中海世界とエジプト		〃
都市環境論、都市生活型公害を克服する法システム		〃
身体と環境		〃
八丁島と瀬太平苔の島々・環境と島民の生活		〃
地球からの贈り物、宝石と鉱物の魅力を探る(基礎編)(応用編)		〃
環境と考古学 1・2		〃
地理学 A・B		文学部提供オープン科目
地球システムと環境問題		教育学部提供オープン科目
地球生物学(地球環境と生物の歴史)		〃
環境の生物学		〃
地球と生命および人類の歴史と環境		〃
地球システム総論		〃
地球環境の資源と生物の絶滅		〃
環境法		社会科学部提供オープン科目
環境情報科学		人間科学部提供オープン科目
地球環境システム論		〃
環境心理学		〃
環境民俗学		〃
環境社会学		〃

環境関連教員・研究

●専門に關わりの深い研究を行っている教員のリスト(2008年6月現在)です。これ以外にも環境問題に関連した研究が行われています。

教員名	専門分野・主な研究課題
赤崎 健一	経済理論、林学
天野 正博	地球温暖化と森林の役割
太田 俊二	地球温暖化、環境影響評価、森林
大塚 直	民法、環境法
大野 高裕	ICM(エコマネー)導入による環境影響評価システムに関する研究、自然環境(RAM)を基にしたリスクシステムの保証
大和田 秀二	リサイクル工学、地球・資源システム工学
尾島 俊雄	低炭素社会・資源循環型居住システム、地域省エネルギー計画立案支援手法
小川 誠	岩石・鉱物・鉱床学、環境浄化材料の設計
勝田 正文	森林環境、資源循環問題に關した熱・エネルギーシステム
北山 雅昭	民法学・環境法
久保 純子	自然地理学、地形学、第四紀学、メコン川下流(カンボジア)の地形と洪水災害に関する研究
栗山 亮一	環境経済学、生態系影響評価
黒川 哲志	環境保全、環境法
森藤 潔	省エネルギー、環境配慮型空調システム
神原 豊	水環境工学、水質工学、環境修復
櫻井 英博	植物生理学、植物生理生化学、環境科学、再生可能エネルギー
杉山 雅洋	交通経済学、交通政策
首藤 重幸	環境法における市民参加、環境行政
早田 幸	都市計画、都市再生、居住環境整備計画
大塚 泰弘	自動車の環境技術、自動車交通と環境・エネルギー問題
高田 祥三	ライフサイクルマネジメント
田塚 新一	室内環境、環境共生建築
田村 正勝	温暖化対策・排出権取引・森林保全・留作、地球温暖化対策、環境権と自然哲学
常田 聡	生活排水の生物処理、生物圏内の微生物生態系の解明
坪地 賢	環境政策
寺島 信哉	環境情報学
長沢 伸也	環境影響評価、環境政策、感性工学
永田 勝也	エネルギー環境工学、リサイクル工学
中村 訓一郎	経済理論、計量経済学、産業界経済学
名古屋 敏士	環境安全工学、作業環境工学、大気環境工学
原 剛	環境ジャーナリズム
御子柴 啓之	環境倫理学
村山 武彦	環境影響評価、社会システム工学、環境保全、社会工学、リスク管理論
森川 朝	森林の保全、森林の二酸化炭素吸収と温暖化
倉本 朋美	廃棄物行政、リサイクル社会、環境行政

地球環境問題談話会

学内外の環境問題の研究や活動を行っている方を講師として招き、学問的な見地から環境問題に関する知識を深めることを目的としています。

質疑応答の時間には、和やかな雰囲気の中にも、参加者の環境への強い関心が伺えます。

各分野で活躍する講演者の最新的话题に触れ、質疑に疑問を交わせる談話会は、早稲田大学ならではの貴重な場といえます。

2005年度から2008年度にかけては、次のテーマで談話会を開催しました。

- [2005年度]
- 第35回 2005年6月30日
製品ライフサイクルの設計と解法
早稲田大学理工学術院教授 高田祥三
- 第36回 2005年12月7日
残土・産廃問題とたたかう市民運動
[残土・産廃問題ネットワーク・弓]は]
事務局長 井村弘子
- [2006年度]
- 第37回 2006年8月13日
環境保全、その意義と戦略
早稲田大学環境総合研究センター教授、
卸環境省水環境部課長 吉田隆久



地球環境問題談話会の様子

キャンパスと自然

所沢キャンパスには、首都圏でも有数の自然環境に恵まれた狭山丘陵の一部にあります。この豊かな自然環境を生かしながらキャンパスを造るため、1987年に自然環境保護法を制定しました。政令以来、キャンパスの自然環境保全のために活動しています。

また、1998年には「人間科学部環境保全基本構想」を策定し、所沢キャンパスでのごみの分別・再生紙の利用・太陽光の利用・残飯の埋却化など、総合的な環境保全の推進を行っています。

本庄キャンパスにおいても豊かな自然を保全しています。2007年4月には環境を主たるテーマとする大学院「環境・エネルギー研究科」を開設します。

さらに新宿区にある西早稲田・戸山・大久保の3キャンパスでは、都心では少なくなりつつある豊かな緑を維持し、学生・教職員だけでなく近隣の方々の憩いの場となっています。近年では屋上緑化、壁面緑化を積極的に進めています。



所沢キャンパスの潤地保全

化学物質管理

早稲田大学では研究・教育活動において多種多様な化学物質を使用します。それらの化学物質の中には人の健康や生態系に有害なものも多く、使用や廃棄にあたっては注意を要します。

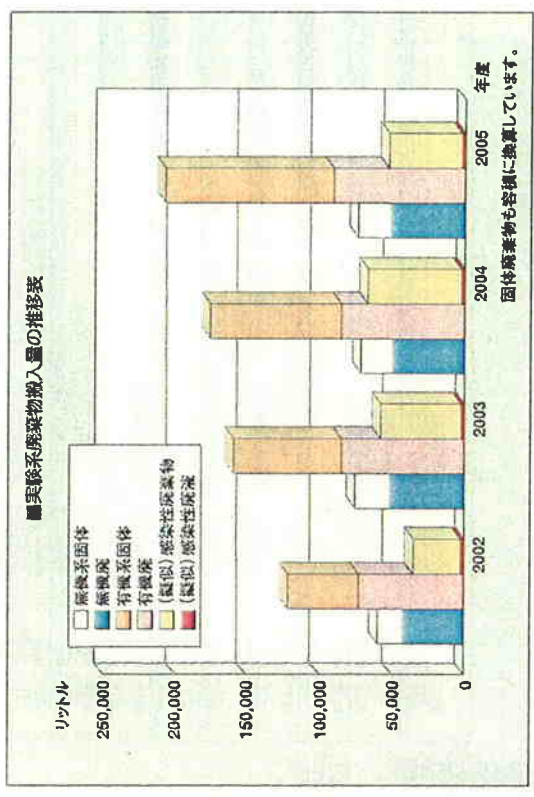
研究・教育活動に伴い発生する有機系薬液物は、その廃棄物の性状に合わせて分別回収がおこなわれ、学外の専門業者にて適切な廃棄処理をおこなっています。

特にスズ缶キャンパスでは化学物質を使用する理工系の研究室・実習室が集中しており、1つ1つの研究室・実習室の使用量はそれほど多くなくとも、キャンパス全体をみた場合、非常に多くの化学物質が使用されています。

大学では「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR制度）」により指定された化学物質のうち、年間使用量が1トンを超えたものの届出を行っております。

2005年度の届出はクロロホルム、塩化メチレン（ジクロロメタン）、トルエンの3物質が対象となりました。

■実験系薬液物投入量の推移表



■2005年度PRTR制度対象化学物質の届出（年内ではスズ缶キャンパスのみが該当しました）

対象化学物質	使用量(kg)	大気への排出量(kg)	下水処理への排出量(kg)	廃棄物への排出量(kg)
クロロホルム	9,000	1,800	11	7,200
塩化メチレン	4,400	900	6	3,500
トルエン	1,500	500	0	1,000

PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 制度とは、人の健康や生態系に有害なものである化学物質について、事業所からの発生（大気、水質、土壌）への排出量及び廃棄物に含まれるの排出量と、事業所外への移動量を事業所が自ら把握し届出を行うとともに、届出は届出事業者や自治体を通じて、排出量・移動量を統計し、公表する制度です。この制度の対象となる化学物質は第一種化学物質として特定された354物質です。届出の対象となる事業所は第一種化学物質の年間取引量が1トン以上の事業所を指すものとされています。